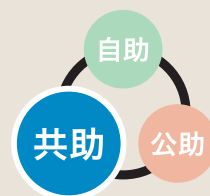


地域でのつながりを

災害が起きたときには、近所の助け合いが大切です。

普段から近所付き合いを深めておくことが地域防災力の向上につながります。



自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域のみなさんが災害に対して協力し合う組織です。自主防災組織を結成し、地域防災活動を行うことで災害に強いコミュニティをめざしましょう。

平常時の活動

● 作ろう、参加しよう、育てよう！

隣近所などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。



● 訓練をしよう！

- 初期消火訓練
- 避難所の開設・運営訓練
- 避難者の誘導訓練



● 地域を点検しよう！

- 消火栓の上や防火水槽の近くに、障害物はありませんか？
- 避難場所を知っていますか？
- 避難経路に危険な場所はありませんか？



● みんなで学ぼう！

防災に関する知識を身につけましょう。想定される災害と対応について話し合いましょう。



災害時の活動

- **初期消火活動** …… 身の安全を第一に考え、消火器などを用いた初期消火の実施
- **避難誘導支援** …… 高齢者や障がいがある人などへの避難誘導の支援
- **救出・救護活動** …… まず身の安全を確保し、その後被災者の救出や救護活動の支援
- **情報の収集・伝達** …… 災害に関する正しい情報の収集・伝達
- **避難所での支援** …… 水や食料などの配給支援や炊き出しなどの活動支援



災害時に配慮を要する人への支援

高齢者や障がいがある人など、災害時において特に配慮を要する人は、地域のみなさんの支援が必要です。

支援するときに心がけたいポイント

- **相手を尊重する** …… 支援は押し付けるのではなく、相手の意見を聞き、それを尊重しましょう。
- **笑顔で接する** …… 笑顔は相手に安心感を与えます。笑顔で接し、信頼関係を築きましょう。
- **無理な支援はしない** …… 無理な支援は思わぬ事故につながります。自分にできる支援を行いましょう。
- **医療行為はしない** …… 医療行為は行わず、医師などの専門家に相談しましょう。

● 高齢者・病気の人

- 背負う(または担架、リアカーなどを利用する)などして安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



● 日本語が話せない人

- 身振りや手振りなどでコミュニケーションをとる。
- やさしい日本語を心がけ、積極的に支援の意思を伝える。



● 目の不自由な人

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った人の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



● 車いすを利用している人

- どのように介助したらいいか、本人に確認する。
- 階段では介助者2人以上が必要。
- 上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。



● 知的障がいなどがある人

- やさしく声をかけ、相手を安心させる。
- 相手の気持ちを落ち着かせてから、安全な場所へ誘導する。



● 耳の不自由な人

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

